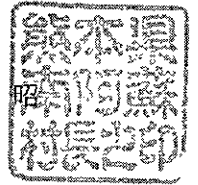


南阿建第 1852 号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

南阿蘇村長 今 村 輝 昭



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼されました件につきましては、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案

熊本県阿蘇郡南阿蘇村

一般国道 57 号線は、九州中部を横断し熊本の経済と観光の根幹を成す唯一の横断幹線道路であり、阿蘇～大津区間は平日休日を問わず常に渋滞に悩まされており、沿線経済低迷の要素の一つと推測されます（24 時間自動車類交通量は、南阿蘇村大字立野で 28,000 台/日）。

そのような事から、平成 15 年度に国道 57 号沿線阿蘇住民協議会が主催する、「国道 57 号線 4 車線化早期実現住民総決起大会」が沿線住民約 3,000 人を集めて開催され、また同年度には熊本県から国土交通省に対し、「国道 57 号立野拡幅の整備について」の提言が行われております。

このように、民間や県レベルで整備の要望が叫ばれる事は類稀な事であり、57 号整備の必要性を強く内外に示すものであります。

渋滞が及ぼす影響は、移動時間の遅延、騒音やCO2等の大量発生、また、阿蘇地域には救急医療機関が少なく、重篤者の多くが熊本市内の医療機関へ移送されますが、住民の生命にも大きな影響を及ぼす場合もあります。

国民の生命を守る事は国の大きな義務であり、道路整備格差は国民の生活水準の格差にも直結している事は言うまでもありません。

平成 16 年度において国土交通省にて行われた「九州の道路に関するアンケート」調査結果を見ると、熊本県民の幹線道路整備の要望は非常に高く、交通渋滞による道路の不満度では九州で最も高くなっています。

これは、熊本県内の道路事情を如実に示すものであり、九州で最も道路整備が遅れている事を示すものであります。

現在、4 車線供用中の菊陽バイパスの 24 時間自動車類交通量は約 29,000 台/日となっておりますが、バイパス整備後に渋滞は発生しておりません。

このように、同規模の交通量を有する阿蘇～大津区間の整備を行えば著しい交通渋滞の緩和が期待されます。渋滞の緩和は、産業・観光・文化の振興に多大な効果を発揮するとともに、沿線住民の安全を確保する事が可能となります。

つきましては、地元調整等につきまして万全の協力体制で取り組む所存でありますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 ①一般国道 57 号の大津バイパスと立野拡幅を結ぶ区間について早急に 4 車線による道路整備計画を策定する事。

②一般国道 57 号熊本東バイパス、縦の拡幅について重点的に投資を行わない、速やかに供用を開始する事。

③県民が強く希望する社会資本としての道路整備において、同路特定財源制度を堅持し、大幅な予算の確保を行う事。

○ 現 状

【国道 57 号線について】

- ① 走行性の向上及び交通混雑。
- ② 交通事故の多発。
- ③ 観光振興による地域活性化。
- ④ 通勤通学の増加現象。
- ⑤ 緊急医療輸送への影響。

○ 課 題

- ① 保有台数の増加により、平日でも 28,000 台/日の交通量もあり、勾配の大小もありドライバーの安全運転性が困難。
- ② 瀬田～立野間にて事故率は 6.29 倍あり、原因は交通渋滞等によるもの。
- ③ 阿蘇地域で県内の 3 割を占め、約 1,800 万人/年の観光者が訪れる。それに伴い、GW等の大型連休時には大渋滞を起こし、渋滞ピーク時である午後 12 時にて最大 15.3km、午後 6 時頃にて最大 12.8km の渋滞が発生する。
- ④ 自家用車利用率も 77% に達している。
- ⑤ 救急で 250 件/年を越す。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

熊本県阿蘇郡南阿蘇村

- ① 慢性的な交通渋滞を緩和するとともに、県内各都市間の移動時間の短縮。
- ② 道路利用者・地域住民の利便性の改善。
- ③ 空港・高速道路等の輸送拠点へのアクセス力の向上に伴う新たな雇用の創出の可能性。
- ④ 産業・経済・観光・文化への発展向上。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

熊本県阿蘇郡南阿蘇村

○ 重要事項 地域現状の課題に対処するため、立野拡幅への事業の重点化。 立野拡幅への事業の重点化後も立野拡幅・大津バイパスの事業を休止・廃止することなく、関係機関との調整や所要の計画検討及び調査等を継続し、工事着手に備え大津バイパスと立野拡幅の間について整備計画を策定すること。	○ 代表事例 立野拡幅 L=6.0km 全工区への予算措置。 立野拡幅 L=6.0km と大津バイパス L=3.2km の一体的な取組み。	○ 期待する効果や評価等 阿蘇地域へのアクセス強化と、渋滞が及ぼす地域社会への影響の解消。	○ その他
--	--	---	--------------